

悠々の郷から

2

織物の色合いを確認しやすいのが理由だぞうだ。

阿波しじら織を手掛ける長尾織布、岡本織布工場、

加藤織布の県内全業者が

しているのは、徳島特産

の「阿波しじら織」。

「シボ」と呼ばれる凸凹

があるのが特徴で、肌触

りや風通しが良く、主に

夏物衣料として人気を集

めているなあ。3代

めるとは「阿波正藍しじ

ら織」と呼ばれ、県の無

形文化財、国の伝統的工

芸品にそれぞれ指定され

ている。

国府町和田地区は、鮎

工を重ね、縮み縞の織

物を作ることに成功。東

新町の太物商・安倍重兵

質で豊富な地下水が得ら

る。

光の方が強さが一定で、

ような光景に見えた。

徳島市国府町和田にあ

る長尾織布。創業は18

97(明治30)年。「戦

後に継ぎ足し」してこ

る

伝統の阿波しじら織を

受け継ぐ長尾織布、徳

島市国府町和田(秋月

悠撮影)

衛(1834~1903

年)が、阿波しじら織と

名付けたとされる。

当時飛ぶように売れ、

明治末期には県内に20

軒を超える機屋があっ

たという。

シボは糸の張力差によ

ってできる。一般的な平

織りは、縦糸と横糸を1

本ずつ交互に浮き沈みさ

せて織り込んでいくが、

製品も多く出回るが、岡

本織布工場の岡本政和さ

がきれいに出不いな」

浮かひ上がらせる。

今では他産地や中国の

藤満壽美さん(63)も「よ

ンドに登録し、差別化を

図っている。

生産量は昭和30~40年

代の3分の1程度に減っ

た。着物や浴衣を着る人

が少なくなり、シャツな

ども安価な中国製などに

押されている。



そうした中、好機と

らえているのが「クール

ビス」だ。国府町商工会

と阿波しじら織協同組合

は本年度、阿波しじら織

を使った女性用クールビ

スのデザインコンテスト

を開催。23日に最終審査

を行う予定で、最優秀作

品などを商品化する。

「高くていいものを

というこだわり志向の消

費者も増えている。そん

なニーズに応える商品開

発をしていきたい」。長

尾織布の4代目で、昨年

6月に社長に就任した長

尾伊太郎さん(49)は意欲

を見せる。

江戸、明治、大正、昭

和、平成と受け継がれて

きた阿波しじら織。伝統

工芸を守るための挑戦が

続く。

(編集委員・高島卓也)

阿波しじら織

伝統工芸 灯は消さぬ

押されている。

(編集委員・高島卓也)